

FREE ^{JMUW} vol.37
Apr. 2019

SPECIAL FRONT INTERVIEW

橘ケンチ

(EXILE/EXILE THE SECOND)

JAPAN MOVE UP WEST Special Event

JAPAN MOVE UP special edition vol.18

2019.3.25 PHOTO REPORT

SPECIAL INTERVIEW

FANTASTICS from EXILE TRIBE

SPECIAL INTERVIEW

Chocomoo

SPECIAL COLUMN

EXILE TETSUYA

5+4

JAPAN MOVE UP WEST



2019年、JAPAN MOVE UP WESTは、
エンターテインメントの力で、岡山県を始め中四国エリアにさらなるムーヴメントを起こすため、
FREE PAPER、EVENT、WEB等、従来のメディアを多角的に活用し、
まち、人、お店などを“つなげる”メディアとして、皆様にサービスを提案していきます。



JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会 加盟企業一覧 (2019年4月11日現在)



株式会社 祥 株式会社DMM.com アシード株式会社

special partner コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 イオンモール岡山

JAPAN MOVE UP WEST 賛同企業加盟-その他お問い合わせは右記まで JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会運営事務局(株式会社HEADLINE WEST/TEL.086-250-8089)

橘ケンチ

伊勢崎競

備前焼作家

J a p a n ' s b e a u t i f u l c u l t u r e

SPECIAL FRONT INTERVIEW

昨年7月の西日本豪雨の被災地域の復興を目的とした、『未来の日本酒プロジェクト』（HASHIWATASHIプロジェクト事務局）のプロデューサー、さらに13代酒サムライにも叙任している橘ケンチが岡山県の備前を訪れ、日本六古窯（にほんろっこう）のひとつである“備前焼”と触れ合った。

photography : LINKA ASSOCIATES INC.

『日本を、知る。』

備前焼は日本酒が器に注がれているというよりも、
日本酒が器にはまっている感じがします。

備前焼は使えば使うほど育ちますからね。

伊勢崎 競 Isezaki Kyo (備前焼作家)

伊勢崎 満 (岡山県重要無形文化財保持者) の四男として生まれる。
昭和45年備前市生まれ。備前市無形文化財楽岡敏一に師事後父の元で修行後独立。
日本伝統工芸展他入賞多数。日本工芸会正会員
<https://kyo-isezaki.com/web/>

橘ケンチ、備前焼と向き合う

――ろくろを回して備前焼を体験していただきましたが、いかがでしたか？

橘ケンチ（以下：橘）：体験する前にも備前焼でお茶を出していただきましたが、この湯呑がより愛おしくなりましたね。こう、しっかりと手になじみます。

伊勢崎競（以下：伊勢崎）：すごく上手だったんで驚きました。ケンチさんのようにすぐに形を作っていける人はそんなにたくさんいないですよ。

橘：ありがとうございます。以前、1泊2日で陶芸を体験したことがあるので、その経験が生きたのかもしれないです（笑）その時は気づいたら6時間ぐらい、ろくろの前において25ぐらい作品を作っていたんですよ。今日作らせてもらったような美しい形ではなくて、いろいろ遊んだというか、中にはぐちゃぐちゃなものもあって。…その時と比べると、今日はやりやすかったです。土が違う。

伊勢崎：備前焼に使う土はこのあたりの土で、きめが細かく粘土としての質が非常に高いです。今日はその中でも粘りが強いものを使ってもらいました。

橘：そうなんですね。あの時の土はもう少しざらざらしてましたね。長くろくろを回していたら手の外側（小指側）が痛くなってきたことを思い出しました（笑） ……（飾られている作品を見て）……備前というのは釉薬（ゆうやく）掛けはしないんですね。

伊勢崎：かけないですね。備前焼は無釉焼締めなんです。

橘：無釉なのにいろんな色があるんですね。使われているのは全部一緒の土なんですか？

伊勢崎：厳密にいうと、僕は作品によって少しずつ配合をかえています。ベースの土は同じです。色の違いができるのは焼き方で窯の中に置く場所で焼け色が変わります。それと、窯を焚くとき酸化焼成（酸素を多く送りこんで焼く）と還元焼成（窯に入る空気を調整して不完全燃焼させる）で焼きます。また、素地に赤い線の緋襷（ひだすき）は酸化焼成で焼いたもの、還元が強くなると黒っぽくなります。

橘：こんなに白くなるんですね。

伊勢崎：緋襷は、素地に藁（わら）を巻きつけて、サヤという陶器を焼くための窯道具に入れて蓋をし、密封して焼きます。火が直接あたらない、蒸焼きの状態です。赤くなるのは藁が当たっているところです。その時に巻く藁は利守酒造さん（岡山県赤磐雄町）が作っている雄町米（利酒酒造が復活させた幻の米）の稲を分けてもらっています。雄町米は背が高いので巻きやすいし、背が高くても立っているということで強いんですね。出る模様にもそれが出るように思います。



1000年前のまま

橘：そもそもなんですが、備前焼というのはどのくらい前からあるのですか？

伊勢崎：須恵器の時代から始まり鎌倉、室町、桃山、江戸時代と1000年に渡り現代に至ります。日本には「六古窯」とされる古くからの焼き物があり中でも備前焼は古く2017年には日本遺産に認定されました。それに今も当時のままでやっている焼き物だと思います。

橘：当時のままというのは？

伊勢崎：備前では登窯（のぼりがま）や穴窯（あながま）で当時と同じ土や割木を使い1000年前と同じ手法で窯を焚いています。世の中がどんどん進化していく中で、今も変わらず先人達と同じ仕事をさせてもらっていることを有難く思っています。

橘：たくさん煙突がありますよね。今、伊部にはどのくらい職人さんがいらっしゃるんですか？

伊勢崎：全盛期は400人から500人の作家さん陶工さんがいたと聞いていますが、今はその時に比べるとかなり減っていると思います。最近は県外から若い人も備前に来て、また増えてきていますね。

ケンチがハマる日本酒が“ハマ”る

――備前焼と日本酒の相性についてお話を聞かせてください。日本酒好きなケンチさんはどんな印象を持ちますか？

橘：備前焼は日本酒が器に注がれているというよりも、日本酒が器にはまっている感じがします。器の側面と日本酒の境界線で何かが起きていような。それに器も手になじんで……、いいですね。

伊勢崎：備前焼は使えば使うほど育ちますからね。色や肌触りもどんどん変わり、しっとりしたり、つるつるになったり、

橘：つるつるですか。

伊勢崎：はい。同じものが2つとないですし、備前焼の成長を楽しみながら日本酒、お酒を飲めるといいところではないでしょうか。それに味もまろやかになるといわれています。実験じゃないですけど、日本酒を備前焼に詰めてみたことがあって、1カ月、2カ月、3カ月と飲んで比べてみたんですけど、2カ月ぐらいが一番良かったなあ。日本酒もそうですけど、焼酎を入れると劇的に変わりますよ。

――ケンチさんは今年、秋田の新政酒造とタッグを組んでプロデュースした日本酒「亜麻猫橘」を世に出しましたが。

橘：その時は、ワイングラスで飲むとおいしい酒をと話しながら作ったんですが、備前焼だったら……やはり岡山のお酒がいいでしょうね。そのうえで、がっつりした日本酒。例を挙げるとすると、他県の銘柄になってしまうけれど、滋賀の「七本槍」のような骨太な感じの。蔵によって個性を出されているので、一概には言えないですが、岡山のお酒にはこつてり、たっぶりみたいな印象があって、東北に比べるとボディはしっかりしていると思います。伊勢崎さんは好きな銘柄はあるんですか？

伊勢崎：僕はそういうのはなくて、お寿司とかにあう辛口の日本酒が好きです。日本酒には寿司。寿司とワインを合わせる人もいますけど、やっぱり日本酒です（笑）

ブレない器

橘：日本酒にハマって各地の酒蔵をまわり始めて、僕の興味は日本文化全体に広がっているんですよ。酒造さんを訪れると酒造さんがお酒を卸して飲食店に行くんです。そこで日本酒を味わって、土地の味も楽しめます。そこには器もあって、それってすごく贅沢な楽しみ方だなあって思っているんです。僕は日本酒が好きなので日本酒の話になってしまいますが、海外に日本酒を輸出して知名度を上げるという動きがありますが、それと同時に、日本にも来てもらってその土地の風土と共に日本酒を味わってもらおうようになっていったら、日本の魅力がより世界中の人に伝わると思います。



――岡山でいえば岡山のお酒を備前焼で味わい、さらに瀬戸内海の魚を使った寿司と一緒に味わうベストな組み合わせということですね。

橘：伊勢崎さんの作品にも、伊勢崎さんがここで食べて育て、作られた感性が出ていると思います。岡山、備前という風土の歴史が。それを、ずっと楽しめたらなああって。伊勢崎さんにはお弟子さんはいらっしゃるんですか？

伊勢崎：弟子はいないです。息子と2人でやっています。息子に限らずですが、備前焼に興味を持ってくれる人の年齢層が下がってきているのを感じます。それこそ30代の半ばぐらいの人が作品を見てカッコいいという表現をしてくれる。今の若い人たちにとっては、こういったクラシックなものの方が新鮮なのかもしれませんね。僕は、備前焼の伝統的なスタイルを作っているんですが、新しい現代的なスタイルも必ず必要だと思うんです。だけど僕の仕事は伝統的な備前焼のスタイルを後に受け継いでいく事だと思っています。

橘：今は、インターネットもSNSもあるから欲しい情報はすぐ手に入ります。そういった流れに乗って生きている人はいいんですけど、若い人のなかにもブレないものに触れたいという人も増えて来ていて、備前焼のような1000年前からある器だとか、伝統工芸に価値を見出している気がしますね。

EXILE LIVE TOUR 2018-2019 “STAR OF WISH”

ドームツアーEXILE LIVE TOUR 2018-2019“STAR OF WISH”を終え、EXILE/EXILE THE SECONDとしての橘ケンチに今感じていることをインタビュー。

3年の間に、メンバーそれぞれがグループや個人で活動し成長をして集まりました。最初は固い雰囲気もあったんですが、リハーサルや本番を通じて、新しいEXILEの関係性というか形が出来上がった感覚があります。今はツアーが無事に終わってほっとしているのと、次のEXILEの形を模索するべく、メンバーそれぞれが夢とか志を描いだんじゃないかなと思います。僕も個人的に動きだしています。

――EXILE THE SECOND (以下:SECOND) の存在感が強まっているように感じました。

SECONDのメンバーは同年代で同期みたいなのところがあって、いい意味でみんなそれぞれ好き勝手にできるんです。SECONDのライブもそういう構成で行えました。SECONDでそれをやっていることで、EXILEになれた時に、EXILEの凄さも分かりました。EXILEには、僕のイメージですけど、EXILEの型があるんですよ。立ち居振る舞いも、エンターテインメントの作り方も。そこだけだと固くなっちゃう感じもあるけど、SECONDで自由に遊んで、自分の思うパフォーマンスをガンガンやって、両方あってよかったなと思います。

――EXILEの型というものを自分たちが固めてしまっているということでしょうか？

EXILEの型というのはメンバーそれぞれの解釈。これって決まっているわけではないし、言葉でうまく説明することもできないけど、HIROさんやオリジナルメンバーと一緒にステージに立たせてもらうことで、感じてきたことがあるんです。SECONDでも、三代目JSBでも、GENERATIONSでもない、EXILEにしかない核みたいなものが。EXILEだってなると、誰に言われるもなく、そのEXILEの型をまっとうしなきゃいけないみたいな使命感は強くなるんですよ。それをどのくらいの割合でやるかっていうのは、メンバーそれぞれですが、

――SECONDのメンバーがステージ上ではEXILEの中心。それによって、EXILEの変化があると思うが、その変化を自分たちで感じますか？

HIROさんがいたときは、HIROさんという絶対的なリーダーがいたから、頑張って追いかけていくという感覚でした。でも今は、いい意味で、みんないろんな方向を向いていて、360度いろんな表現ができるように感じています。前は何よりもEXILEの意識が強いというか、軍団パフォーマンスで、圧力出していきみたいな感じでした。今はそれよりもみんなで機動力を持ってやっていて、それぞれ表現の仕方があるけど、そのうえで、EXILEという枠に収まっている感じです。

――最近発表された“部活”について教えてください。

EXILEもLDHも長い歴史ができてきました。PERFECT YEARも6年に1度のお祭りとなってきました。そのなかで部活というのは、もっとお客さん一人ひとり、個に届けたいという気持ちが強くなってきたなかでのコミュニケーションというか、エンターテインメントです。僕らのエンターテインメントの真骨頂はライブですが、その日会場に来てくれた5万人も楽しませたいけど、15年間応援し続けてくれたファンの方々と、もっとコミュニケーションが取れたらって。僕たちはもうただのダンス&ボーカルグループだけではなくて、メンバーそれぞれが個々でいろんなプロジェクトを展開しています。僕だったら日本酒や本、TETSUYAだったらコーヒーというように、EXILEやSECONDのエンターテインメントとは違う軸で、自分の趣味を追求しています。それだったら、同じことが好きな人だけ集まって、ライブとは違った、思い出を作ってもいいんじゃないかと。私は日本酒が好きだからケンチのところに行こう、コーヒーだからTETSUYAとかね。僕が感じているのは、日本酒部を作って、日本酒のインフルエンサーになってもらおうなんて考えたりしています。



BEYOND
2020
NEXT
FORUM

日本を元気に! JAPAN MOVE UP!

BEYOND 2020 NEXT FORUM キックオフセッション

日本の「元気の素」若手起業家ら発信



若手起業家や企業経営者、アーティストらが集まり、2020年以降の日本を元気にするために活動するBEYOND 2020 NEXT FORUM(主催・BEYOND 2020 NEXT FORUM実行委員会、二十一世紀倶楽部)のキックオフセッションがこのほど都内で開かれた。19年ラグビーW杯日本大会、20年の東京五輪パラリンピック以降の新たなコト、モノを創出すべく、今後2年間にわたって活動する。当日は東京都の小池百合子知事がビデオメッセージを寄せたほか、第1部のトークセッション「Beyond2020に向けて」では放送作家、脚本家の小山薫堂氏や俳優、国際短編映画祭代表の別所哲也氏、東大教授の鈴木寛氏の3氏が登壇。第2部のトークセッションではアソビシステム社長の中川悠介氏、ドワンゴ専務CCOの横澤大輔氏、電通コピーライターのア部広太郎氏、セブンセンス社長の吉田拓巳氏の4氏が「Beyond2020エンターテインメント」のテーマで討議し、参加した約150人の聴衆を沸かせた。ファシリテーターはジャーナリストの堀潤氏。



■主催者あいさつ

発起人代表 一木広治氏

2020東京五輪・パラリンピックの開催がいよいよ来年に迫りました。世界各国からいろいろな人が日本を訪れ、日本の最高の技術・サービスが出てきます。そのレガシーを活かして今から2020年以降の日本の元気の素をみんなで考えていこうというのがBEYOND 2020 NEXT FORUMを立ち上げた狙いです。今後、5つのテーマについてセッションを行っていきますが、それだけでなくワーキングとしていろんな方に参加していただき、いろんな提言を発信していきたいと考えています。本日を境に多くの方の参加と協力をぜひお願いしたいと思っています。



東京都知事

小池百合子氏(ビデオメッセージ)

BEYOND 2020 NEXT FORUMは、2020東京五輪・パラリンピックに向けて日本全体を盛り上げてさらにはその後のレガシーとして我が国を元気づけるプロジェクトや新たな産業が生まれる、そんな機運を作る取り組みと伺っています。会場には東京、日本の将来を新たなビジネスモデルやサービスを通じて作り上げていこうとする起業家の皆さまやそれから創業を目指す学生の皆様などがお集まりと聞いております。それぞれがお持ちのポテンシャルを大きく花開かせていただきたい。日本の未来を担うとの自負心を持ってこれからの事業プランを描いてほしいと願っております



内閣府特命担当大臣

平井卓也氏

現在政府でIT、科学技術、宇宙政策、クールジャパン、知的財産、健康医療を担当しています。2020年以降は人口の半分以上が50歳以上になるというこれまで経験したことのない時代に突入し、政策もこれまでの延長線で考えてはダメだと認識しています。そして時代の変化が激しいときには組織から上がってくる情報よりも直接現場でやっている方々の話を聞いた方がいいと考えております。そういう意味でも、我々の望む未来像に向けてBEYOND 2020 NEXT FORUMに参加されている皆さん方のお知恵をいただきながら国の政策に生かしていきたいと考えています。



■トークセッション

世代間のつながりが大切／危機をチャンスに／枠組みをぶっ壊す

鈴木寛氏、別所哲也氏、小山薫堂氏 ファシリテーター堀潤氏

堀 「日本を元気にする」にあたってまず課題の共有を最初にして、それから具体的なプランをお伺いしたいと思います。鈴木さんいかがですか。
鈴木 結局つまるところ、近代という社会システム自体がもう限界にきていると思っています。今の社会システムはアメとムチで社会を良い方向に向かわせようとしているが、例えばいくら法律を作ってもいじめはなくならない。要は人と人の関係がうまくいっていないわけですね。一つの例ですけど、これからは「かわいい」とか「かっこいい」とかこんな要素で人が動くと思っています。
小山 高齢化社会を迎え、やはりお年寄りたちの好奇心と探究心、向上心がどれだけ維持できるかによって国の形が変わってくると思っています。そのために上の世代と下の世代がつながったり、交わったりすることが大切なのかなと思います。例えば、若い人が年を取りたくないと思うより、年を取ったらいいよなと思いつつ生きていった方が幸せなんじゃないかなと思います。実際今の60歳、70歳は本当に元気です。堀 どうやってつないでいくかですね。都市部と地方でも違いますよね。
堀 どうやってつないでいくかですね。都市部と地方でも違いがありますか。
小山 僕は6、7年前から京都で半分暮らしているんですが、京都にはそれがあるんです。つながりがあるって、京都の大人たちの文化レベルがめ

やめちゃう高い。継承していくものが明確で、そういう環境で生きてきたことが大きい。いろいろな世界を持っているから人とぶつからない。そういう教養を持った大人と若い新しい考えを持った若者が変わることが非常に大事だなと思います。
堀 別所さんはいかがですか。
別所 僕は短編映画祭の代表もやっているんですが、つくづく感じるの、僕たち自身が何に価値を置いているのかをもっと世界に発信しないといけないということです。世界の人は日本のことをもっと知りたいんですけど、日本人が何に価値を見出しているのかわからないとよく言われます。自分を丸出しにする文化、関係性が育っていない。コミュニケーションを取るうえで、いい意味でのおせっかいな文化が日本には必要なかなと感じています。
堀 日本をどう変えていくかについて、お三方にフリップを書いていただきました。鈴木さんは「危機を活かし日本から新たな人類史を創生します」、別所さんは「BEYOND THE FRAMEWORK」、小山さんは「文化庁を勝手に応援します!!」ですね。まずは鈴木さんから解説をお願いします。
鈴木 「危機を活かし」部分は書き足しました。2020年以降は危機が来るんですよ。ただ、危機というのは危険と機会のことで、オポチュニティを含むんです。ですから今の若い人は危機が来る



鈴木寛氏



別所哲也氏



小山薫堂氏



堀潤氏

と言ったらもっと喜ばないといけない。よし、俺たちの番がやってきたと。いろんなことを始める機会を得るんだと。危機は日本にとってはチャンスなんです。今の日本の近代社会はアメリカやイギリス、フランスなどの真似をしてできたわけです。これからの日本は、道なき道を世界中のいろんな人とつながり切り開いていく。こんな楽しいことがないわけですよ。
堀 別所さんの「BEYOND THE FRAMEWORK」は
別所 いろんな先輩たちが作ってきた仕組みや恩恵で僕は生きているというところからそろそろ抜け出さなくてはならない。その象徴が五輪であり、博覧会。先輩たちが作った大切な装置ですが、僕らその装置を今風にしたり、新しい形にしていくべきで、これまでのフレームワークを疑うことが必要だ。例えば、五輪は国別対抗だけでなく、くじ引きしてどの国の人と一緒にいるかわからないとか。国旗を背負うだけのものではない、生まれ変わる五輪になったらいいと思

いますね。
堀 小山さんの文化庁を勝手に応援するとは。
小山 UAEには幸福担当大臣がいて、すべての政策を国民の幸福に役立っているかどうかの視点から物事を判断しています。日本ではさすがに幸福大臣は難しいと思うんですが、文化庁が文化庁的視点での日本の政策に関与できたら日本はよくなるんじゃないかなと思うんですね。例えば、国交省の道路づくり、農水省の食糧政策、観光庁のキャンペーンを文化的にみたらどうなのかなどをウオッチするだけでずいぶん日本の文化レベルは上がってくるような気がします。出国税を財源として文化庁がいろんな新しいことに挑戦できるようになったのを機に、文化庁をもっとうまくみんなで盛り上げれば、この国の新しい価値を既存の中から発掘できるんじゃないかなと勝手に思っています。
堀 世代のつながり、既存の仕組みの見直しなど日本を元気にするアイデアがたくさん出ました。本日はお忙しい中、ありがとうございました。

FANTASTICS from EXILE TRIBE

2018年末にデビューしたダンス&ボーカルグループのFANTASTICS from EXILE TRIBEが、ニューシングル『Flying Fish』をリリース。

キャッチーでさわやかで、新しくスタートを切る人たちと一緒に歩いていくような曲。

「自分たちにすごくフィットしている感覚がある」という本作について聞いた。



photography: 仲西マティアス

SPECIAL INTERVIEW FANTASTICS、最新作『Flying Fish』で成長聴かせる

――最新作となるセカンドシングル『Flying Fish』が完成しました。この曲が手元に届いたとき、最初に思ったことってどんなことだったんでしょうか。

世界:…なんか、売れそうだなって思いました(笑) さわやかで、キャッチーなのに、メッセージ性が強い。さわやかな印象だと思うんですけど、言っていることはすごく深いなって。これは僕らにとって、すごく大切な曲になると思いました。自分たちにすごくフィットしている感覚があって、そんなふうに見える曲にこんなに早く出会えるなんて。とてもうれしいです。

――自信作ということですね。そのフィットしていると感じる理由って、例えばどんなところがそう感じますか？

世界:歌詞は、他のEXILE TRIBEのグループやLDHに所属しているアーティストがお世話になっている小竹正人さんに書いていただいているんですが、小竹さんは僕らにすごく近い存在なんです。だから歌詞がまるでメンバーが書いたようで。込められている想いとか。きっと10年後もパフォーマンスしたいと思うだろうなって思う曲です。

――小竹さんとは近いということでしたが、歌詞を書く前提みたいなものがあって話をしたりするんですか？

世界:というよりも…ご飯を食べたりするんですよ。そういうのとは関係なく。

佐藤大樹(以下、大樹):その場で歌詞について話すということではないんですけど、普通の会話をしているうちに、僕らはこう感じているんだろうなって書いていっちゃうみたいです。

――新しい一歩を踏み出そうという気持ちを応援してくれるというか、寄り添ってくれる曲だと思います。ボーカルのお2人はどのようにこの曲と向かい合っていますか？

中島颯太(以下、中島):大樹君経由で小竹さんが持っていたトビウオのイメージの映像をいただいていたので、イメージが沸いた状態でレコーディングに臨みました。

――タイトルが差すものはストレートにトビウオなんですね。その映像はどのような映像なのですか？

大樹:トビウオの群れですね。ミュージックビデオを撮影する前においてほしいって。それだけでした。特に、説明もなく。

――その映像を見て、そのイメージで、ボーカルのお2人は歌ったんですね。

八木勇征(以下、八木):すごくフレッシュな曲調なので、歌声だけを聞いても、笑顔が浮かんでくるような、そんな歌い方を意識してレコーディングしました。

中島:笑顔で歌う、歌っていて自然とそれが表情に出てくるように、って2人で試行錯誤しながら。

――一曲の中には、「白黒がつかない」だとか、「青春って時間の次の春はどんな色をして」だとか、グリーンだとか、いろいろな色が出てきます。でも、今回のアートワークを見てみると…カラフルだったデビュー作とは打って変わって白い。

世界:僕は、これから始まるって意味での白だと感じています。この曲ってボーカルが入ったFANTASTICSで取り組んだ初めての曲なんです。前作の「OVER DRIVE」はパフォーマーだった時からの曲ですし、どちらかというパフォーマー寄りの曲でした。そういう意味で、決意表明みたいな。これから色濃くなっていくぞという意味での、白。

佐藤:白いキャンバスみたいで！この先どんな色に染まるのか、楽しみにしてほしいなと。

――さて、ミュージックビデオを含めて、パフォーマンスの話を。振り付けは、引き続き、世界さんが担当ですか？

世界:はい。歌詞の世界観を届けたいというのは当たり前としてあって、そこからどうしたらみんなが輝くのか、どうしたらこのチームにとっていい振りかかと考えて振り付けています。この曲でも同じです。みんな身長が高くて手足を使うのが上手なメンバーが多いので、長い脚と腕を存分に使える振りになりました。それにこの曲ではボーカルも一緒に踊る部分があります。

――八木さんと中島さんにとっては新しい挑戦ですね。

中島:新しい自分を発見できたかなという感じですね。グループとしての一体感を感じてもらえるパフォーマンスができるんじゃないかなと思います。ミュージックビデオでも踊っているところを見てほしいですね。

――シングル収録曲の「Believe In Love」について聞かせてください。この曲は佐藤さんが主演を務める映画『4月の君、スピカ。』の主題歌です。

佐藤:自分が出ている作品の主題歌をFANTASTICSでというのは、グループを結成してからのひとつの夢でもあったので、思っていたよりも早く実現できてうれしかったです。EXILE TRIBEのアーティストがお世話になっている春川仁志さん(作曲)、岡田マリアさんの作詞で、めちゃめちゃ豪華です。それと、映画に合っているのはもちろんですが、ライブをするときに、また新しいFANTASTICSを表現できるのかなって、ワクワクする感じです。

――バラード曲ではボーカルの担う役割が多くなるとは思いますが、いかがでしたか？

中島:寄り添う声とか、映画館で聴いてくださる方を意識しながら、フレーズの最後の最後まで意識を配りました。とはいえ、この曲は、パフォーマンスするバラードなので、歌いながら一体感を感じられています。それもうれしいです。

――もう、ライブパフォーマンスをお客さんの前でされているんですね。

八木:はい。ボーカルも、パフォーマーに寄り添う気持ちで歌い、パフォーマンスする。レコーディングでやったことをライブでやろうとしているんですが、難しいなあって。EXILEさんとか先輩たちがライブでバラードをパフォーマンスしていることがどれだけすごいことなのかって、改めて実感しています。

――EXILEさんといえば、EXILEのドームツアーに帯同してきたことも大きいんだと思いますが、前回のインタビュー時と比べると、みなさん、アーティストの風格が出てきましたね。大樹さん、そう感じませんか？

大樹:確かにそうかもしれません。自分たちではなかなか分からないんですけど、先輩方も「デビュー前とは顔つきが全然違う」って言ってくれました。EXILEと一緒にドームのステージに立たせてもらって、あれだけの人数の前で歌い、踊ったんですから。

――パフォーマーのみなさんは、それぞれ自分自身で変化を感じていますか？

瀬口黎弥:最初の公演がデビュー前で、それ以降も経験できて、EXILEさんに教わるものはたくさんありました。

木村慧人:約5万人が見ていらっしゃいますから、遠くのほうまで意識してパフォーマンスすることを学んだ気がしています。パフォーマンスの時にらせるパワーの量というか強さもより大きくなったと思います。それに…今度は単独でもできたらなと思いました。

堀夏喜:EXILEさんのツアーもそうですが、そのほかにもいろいろなステージでさまざまなお客さんの前でもパフォーマンスをして経験を積んで、アーティストが発信するもの大切さという責任感もすごく考えるようになりました。それと同時に、個人というよりはグループについて考えるようになりました。

――そう感じたことは大きいですね。

澤本夏輝:その結果というのか、こういった取材や撮影でも、いろんな表情を出せるようにしたいとしっかり意識するようになって。少しずつできるようになってきたのかなって思っています。それが曲にも反映できるようにって、バリエーションが増えたと自分では思います。

――これから『Flying Fish』を聞く機会もたくさんありそうですね。

大樹:はい。ぜひ、みなさんにお会いしたいですね。

New Single **Flying Fish** NOW ON SALE



タイトルトラックのほか、佐藤大樹と福原遥が主演を務める映画『4月の君、スピカ。』の主題歌「Believe In Love」、 「Can't Give You Up」、そして「OVER DRIVE」の英語バージョンを収録。それぞれタイプの異なる楽曲でFANTASTICSの魅力がさまざまなベクトルで発揮されている。【CD+DVD】盤のDVDにはタイトル曲のミュージックビデオを収録している。【CD+DVD】は1852円+税。【CDのみ】1204円+税。rhythm zoneよりリリース。

3.25_{MON}

JAPAN MOVE UP - special edition vol.18 -



Tachibana

KENCHI

SPECIAL GUEST

橘 ケンチ (EXILE / EXILE THE SECOND)

3月25日(月)、イオンモール岡山1F 未来スクエアにて《JAPAN MOVE UP -special edition vol.18-》ラジオ公開収録が開催された。スペシャルゲストには、約1年半ぶりに公開収録出演となったEXILE / EXILE THE SECONDの橘ケンチさんを迎え、会場は当選者600名を含める多くの来場者で溢れかえった。

収録では、ケンチさんが取り組まれている“未来の日本酒プロジェクト”についてのトークや来場者からの質問コーナーがあり、来場者の誕生日をお祝いするなど、会場は和やかムードに包まれた。



CityLight

TYPEX co.,ltd.

VERMORE

Lee GROUP

special partner

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
イオンモール岡山

KIRIN

SAITO
PRINTING CO., LTD.

株式会社
エムシーエム

株式会社 祥

株式会社 WORK SMILE LABO



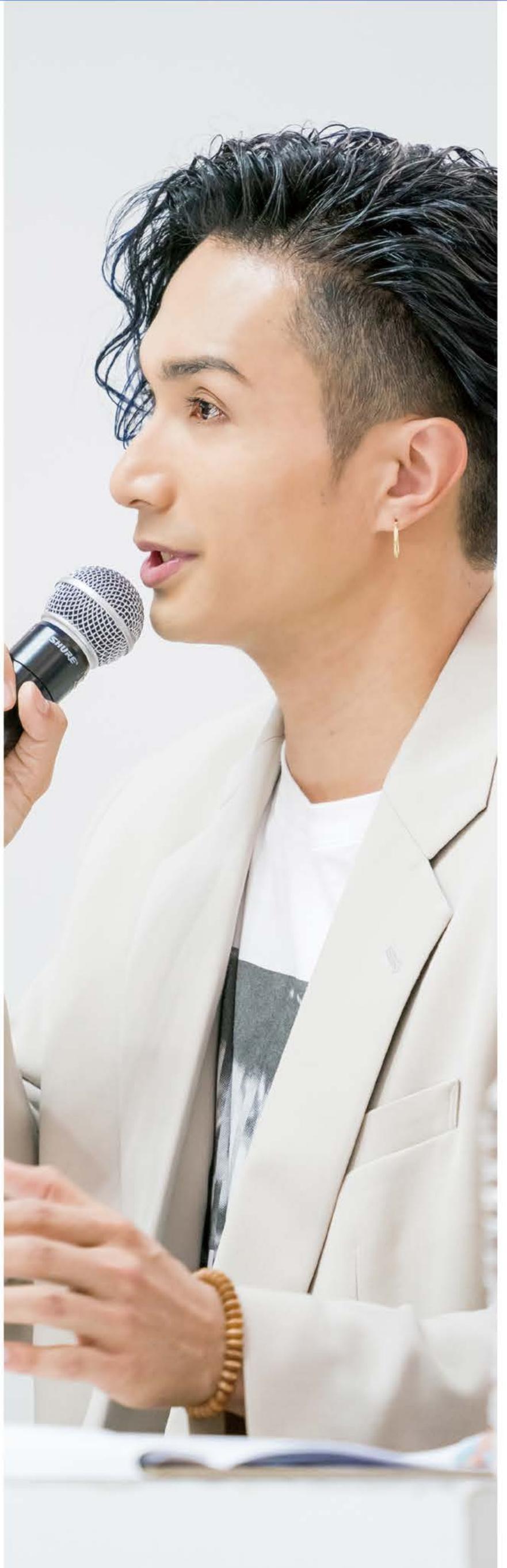
JAPAN MOVE UP supported by TOKYO HEADLINE

日本を元気に!! TOKYO FM(80.0MHz)
毎週土曜日 21:30~21:55

「日本を元気に!!」をテーマに、毎回各界の著名人をゲストにお招きし、元気になるためのトークをしています。リスナーの方が思わず元気になるトーク満載で、東京で他放送中です。

<http://www.jfn.co.jp/moveup/>

今回の収録の様子は、Podcastにてノーカット版 配信!!



photography: 宗村 和磨 (NEMURA FILMS)



54

JAPAN MOVE UP WEST

photography: 宗村 和磨 (NEMURA FILMS)

01.チーム内でのニックネームは?

—— **きーやん・こうへい・きーちゃん・きー坊**
ニックネームは全部お気に入りです。

02.子供の頃はどんな子だった?

—— **正義感が強くて、常にみんなの中心にいるような子供でした。**
小学生の頃のクラブチームでもキャプテンをしていたし
中学生では、生徒会役員をやっていました。

03.よく聴くアーティストや曲は?

—— **清水翔太!** お気に入り♪ **Because of you**
毎年ライブに行ってます! 朝起きてすぐや移動中、試合の前とか音楽を常に聴いています。

04.カラオケの十八番は?

—— **SPiCYSOL** ♪ **Coral**

05.「オレってカッコいいな」と思う瞬間はどんなとき?

—— **ツッコミを予想して**
ボケた時に思っていたツッコミが見事にきて、笑いが起きた時(笑)
だいたい欲しいツッコミを#11ミム(三村選手)がくれる。
一連の流れが成立した時“キターー!”と思う。あれ? これ質問と違う?(笑)

素顔の喜山選手に **11問 11答** でお答えいただきました!!

06.オフの日はなにしてる?

—— 基本あまり外に出ないかな。
Netflixで映画を観たりしてます。
今ハマっているドラマは **“ペーパーハウス”** めちゃくちゃ面白いです。

07.仲の良いチームメイトは?

—— **#14康太くん(上田選手)・#13隼樹(金山選手)・
#8裕介くん(田中選手)・#11ミム(三村選手)**
よく一緒にいますし、ご飯にもよくいきます。
新加入の裕介くんとは、高校時代に試合をしたことがあり存在は知っていました。
歳も近いのですぐ仲良くなりました!

08.チームメイトの中で旬な(キてる・面白い)人はいる?

—— **#26マツケン(松本選手)かな〜。**
むちゃぶりしても対応するし、モノマネもできて、
歌の趣味とかも合ってよく話したりするので
僕の中で育てていきたい存在ですね(笑) ムードメーカーになれるように。

09.自分だけが知っているチームメイトの秘密を教えて!

—— **#14康太くんは** 子供時代喧嘩をよくしてたのを覚えてます(笑)
#34カル(デューク選手)は、ある程度の人ならモノマネが出来る!
身近な人をよく観察していて、**監督のモノマネとかもします(笑)**
この才能は、本当にすごいと思います。

10.チームメイトと1日入れ替わるなら誰になって何をします?

—— **#17健二(関戸選手)になって**
どれだけ女の子から視線を感じるか体験してみたいです!(笑)
用事もないのに岡山イオンに行って待ってます(笑)

11.思わずグッとくる女性の仕草は?

—— 横のアンクルから見る髪の毛をまとめる姿かな〜。結構グッとくるかな。



DF06

喜山康平 - きやま こうへい -
1988年2月22日 179cm/75kg 東京都出身

男らしく、チームメイトからも頼られる存在の喜山選手。インタビューでも色んなチームメイトとの仲良しなエピソードがたくさん聞けました! 今後の、次世代ムードメーカー育成にも期待したいですね(笑)



vol.7 **喜山康平**

photography : 宗村 和磨 (NEMURA FILMS) ©2017 F.O.S.C.

この度、ご卒業された多くの皆様、本当におめでとうございます!! 僕がEXILEの中で大好きな卒業ソングを、ご卒業されるみなさんに改めて贈らせて頂きたいと思いますので聴いてください!!

「思い出が時間を止めた」
今日の日を忘れるなど
見慣れた景色 二度と並べない
思い出の道

この道で 君と出会い
春が僕らを包んでた
愛と優しさ 教えてくれたね
泣かないで歩こう

空、今日も青空です
泣き笑いたあの時
あたりまえが未来に変わる
「希望」「夢」「愛」話したい
動くな時間
空に叫ぶ
キミを忘れない

道、キミと歩いた今日まで
かすかに動くくちびる
特別な時間をありがとう
「心」「勇気」「友」「笑顔」
嬉し過ぎて
溢れ出した
涙がとまらない

(EXILE「道」より)

僕の歌声、届きましたか? (笑) この卒業が、みなさんの未来にとって素敵な出来事であります

ように。

さて今月は、DANCEA RTH スペシャルユニットを組んで、ハワイのホノルルフェスに参加させていただきます!! このフェスは、ハワイと日本をつなぐ歴史深いイベントで、今回で25回目になります。そのフェスの中にダンスコンテストがあり、そこでのパフォーマンスになるのですが、久しぶりのダンスショーケースという事でかなり緊張しますね (笑)。

今回はそんなに長い時間を踊るわけではないのですが、EXILE USAさんと、ダンサーの大先輩でもあるU-GEさんと3人だけで踊るので、かなりのパワーが必要になります。3人で振り付けを作っては直し、作っては直し、踊っては直し、踊っては直しの繰り返しです (笑)。それでもいつも踊っているダンスとは少し違う意味で、踊りがいのあるダンスショーケースが出来上がりました!!

そして、日本でフラダンスのレッスンにも通い、挑戦してみているのですが、本格的にフラダンスに触れてみると本当に難しく奥深いです!! 歌詞をそのままダイレクトにダンスに落とし込み、情景を感じてもらい踊りは、普段踊っているダンスとは異なり、ノリと勢いだけではできない、正確さと繊細さが必要になります。以前に手話



ダンスを踊った事があるのですが、その感覚にも近いような...でも意味合いや、想いや祈りがこもっていて、なんだか新感覚なダンスに出会ってしまった感動がありました!!

さて本番では、上手く踊れるのか!? 帰ってきたらまたご報告したいと思います、まずはハワイアンのみなさんも日本人にも、どんな方々にも、僕らの願いや祈りを伝えられるようなステージをしてきたいと思いますので、日本からでも、温かい応援をよろしくお願い致します。

19歳からダンスを始めて、約19年くらいが経ちますが、まだまだ知らない踊りは山ほどありますし、どのダンスもまだまだ下手くそだと改めて感じています。

これからも自分の心の声の向くままに、ダンスと真摯に向き合っていきたいと思いますので、皆様これからも僕のダンスの道にお付き合いください (^o^)/v

TOKYO HEADLINE vol.714 より

19歳よりダンスを始め、EXILE PROFESSIONAL GYMにてインストラクターを務める。2007年に、二代目 J Soul Brothersのメンバーに抜擢され、2009年2月25日に、アルバム『J Soul Brothers』でメジャーデビューを果たす。そして、同年3月1日にEXILE新メンバーとして加入し、2011年には、THE SECOND from EXILEとしても活動を始める。また、個人活動として2011年に月刊EXILEにて、自身が所長を務める『EXILEパフォーマンス研究所』の連載を開始する。2014年4月、淑徳大学人文学部表現学科の客員教授に就任する。そして、2015年4月にEXILE USAが活動を行っているDANCE EARTH PARTYの正式メンバーに選ばれる。2018年3月、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科を卒業。そのほか、役者としてドラマや舞台に出演するなど、さまざまな活動を展開し、エンターテインメントの可能性を広げている。

わたしの歌が1人でも
多くの人の心に
 届きますように――

シンガー

室井 美咲

Muroi misaki



室井 美咲 むろい みさき (写真左)
 シンガー
 1997年3月29日生まれ
 Twitter・Instagram
 室井美咲で検索

Interviewer 玉川 洋輔
 シンガーソングライター
 facebook・Twitter・Instagram
 玉川洋輔で検索



玉川(以下、玉): 室井さんが歌を始めたいきっかけを教えてください。

室井美咲(以下、室): 小学校の頃に、テレビで見たフィギュアスケートでアーティストの方が生歌を披露しているのを聞いて、すごく感動したのがきっかけだと思います。

玉: 今はシンガーとして自分自身がステージに立つようになって感じることはありますか？

室: 元々はダンスをしていたこともあり、人前に出ることに慣れて緊張するということはありませんが、悔しい気持ちになることは何度もあったりします。本番で100%自分の力を出しきることって本当に難しいことなんだなって思っています。

玉: 歌を歌う時どんな気持ちで歌っていますか？

室: だれかの歌を聴きたくなる時って、色んな場面がありますよね。楽しい時、泣きたい時、もう少し元気が欲しいなって思う時、色んな状況があると思います。誰かの感情が揺れ動く瞬間に寄り添えるような歌。聴くと元気がでる、救いになるような歌。自分の歌を聴いて、そんな風に思ってくれる人が1人でもいれば嬉しいなって思っています。

玉: シンガーとして日々努力していることは？

室: 発声や腹式呼吸なんかの基礎的な練習は毎日頑張っています。音感とかは苦手だったりするので、ピアノで音をとったり弾いたりして歌うことも大切にしています。伝えるということに関してはまずしっかりと歌詞を読んで、自分なりの分析をしてみる。この歌詞はこう思うけど書いた人はどう思っているんだろうとか、聴く人はどう思っているんだろうとか。色んな部分を自分の中でしっかりと理解して歌にすることってかなり意識しています。あとは、そもそも自分の歌を聴いてもらえる人がいないと意味がないですね。その為にSNSでの動画の更新率を上げたりして、フォロワーの人数を増やすことを大切にしています。1人でも多くの人に自分の歌や存在を知ってもらいたい。こういったことは心がけています。

玉: もうすぐ初となるオリジナル曲をリリースされるということで、その曲に対する想いを教えてください。

室: 初となるオリジナル曲は前向きな応援ソングになっています。誰かの心の救いになるような楽曲になればと思っています。今日も頑張ろう! って思ってもらえたら本当に嬉しい。リリース後にMVも公開予定なので楽しみにしててください。

玉: シンガー室井美咲が伝えていきたいことは？

室: 言葉ですかね。20歳を超えてやっと自分の歌う心境が変わってきた気がするんです。オリジナルもカバーも、歌詞の言葉の1つ1つの意味を考えながら歌うようになった。大人になるにつれて歌い方も変わってきたと思うのでそういった所も見て欲しいです。私が目指したいものはうまい歌ではなく、良い歌を歌いたいということ。ずっと歌っていたいというのが私の夢です。

玉: ちなみにトマトの意味は? (笑)

室: 私トマトが大好きなんです。私にとってトマトは、歌う為には欠かせない原動力のひとつです! (笑)

時代を見ながら、
 できることを
今、全部やる。

BAZ-K(以下、B): 上昇するアイテムを選んだ理由を教えてください。

金島総一郎(以下、金): 僕が上昇するアイテムにしたのは、ネックレスのトップです。スケートを始めた頃に父親からもらった物で、ずっと身につけていてお守りになっています。今は、ネックレスとしては使っていないけど、どこへ行く時も常に財布の中に入れて持ち歩いています。

B: お守りを持っていて勇気をもらえたなと感じるときはありましたか？

金: 大会の時は常に持って行っているんで、あって当たり前になっているんですけど、普段の練習の時にたまたま忘れてしまったりとすごくソワソワしてしまいます。ゲン担ぎの様なものなので常に近くに置いておきたいです！

B: 事務所に入って自身の中で何か変化はありましたか？

金: 事務所に所属するまでは、1人で全部やらないといけないし、失敗しても全部自分に返ってきていたけど、事務所に所属することで失敗も自分だけのことではなくなるという意味では、より責任感を持って行動しないといけないと思うようになりました。事務所に所属することで、マネジメントをしていただけるのでその時間を競技にあてることができているのは大きいですね。

B: 海外と日本のインラインスケート(ストリートカルチャー)文化についてどう考えていますか？

金: 若い世代を育てることに関わり重点を置いています。日本と海外では、文化の違いがすごくあって、スケートボードやサーフィンにしても海外では生活に根付いています。アメリカでは移動手段として使われていたりするのが当たり前でそういったストリートカルチャーが日常に根付いた部分を日本にももっと取り入れていけたらなと思っています。

B: 今後の夢や目標を教えてください。

金: 世界戦には、継続して参加していきたいです。若い世代の育成やスケート文化を受け入れてもらえるようにもっとスケートを発信していきたいですね。ショーやメディアで発信して、インラインスケートだけでなく様々なストリートカルチャーが見ていただけるようなイベントもやっていきたいです！自分自身の事で言うと、先を見過ぎないようにしています。先のことを考えすぎてしまうと目先のことが疎かになってしまうじゃないですけど、今できることを全部やっていきたいと、30分時間が空いているから練習に行くとか、細かい時間の積み重ねで色々変わってくると思うんです。そういった時間の積み重ねの中で若い世代とも絡んでコミュニケーションをとったり、SNSで発信したりしています。

B: これからの世代にどうやって自分のやり方を伝えていきたいですか？

金: 自分も若い時は、上の人たちが活躍しているところにおんぶに抱っこでしがみついていた。その人たちがいなくなったときに「あれ？これってそうやってたっけ？」って分からなくなるのが時代が変わる時の流れなのかなと思っています。その中で自分がどうすれば良いか気付くことが大事だと思うので、自分で気付いてもらう為に、物事のバスやアドバイスをしています。いざ、その状況に自分がならないと気付けない部分だと思います。人生1回きりだから、歳をとった時に「あの時やっとなら良かったな」と思うのが一番もったいないことだと思うので、失敗しても何事もポジティブに捉えてどんどん挑戦していくということの大切さを次の世代に伝えていきたいです。

CDS

アグレッシブインラインスケート世界一位

金島 総一郎

Kanashima soichiro


 Interviewer BAZ-K (写真右)
 株式会社バスクリエーション代表取締役

 金島総一郎 (写真左)
 アグレッシブインラインスケーター 世界王者
 CHIMERA CDS所属

美味しいだけじゃない。

意味のある ジェラートを作る。

岡山でこだわりのジェラートを是非。

――上昇するアイテム(トロフィー)を選んだ理由を教えてください。

石橋玲音(以下:石):ジェラートアーティストになって初めて結果が形として現れたものがこのトロフィーだったので上昇するアイテムに選びました。

――ジェラートアーティストを目指したきっかけは何でしょうか。

石:僕は、物作りが出来ないような不器用なタイプなんですけど(笑)ご縁がありジェラートの世界チャンピオンの柴野大造さんと出会い、お話をさせていただいてジェラートに対する情熱とかを聞き、純粋にかっこいいと思いました。この出会いをきっかけにジェラートアーティストを目指しました。

――お店のGelateria La Naveでのこだわりを教えてください。

石:地域の方に愛されるお店にしたいと思っています。なので、岡山の地産地消の物でジェラートを作ることにこだわっています。柴野さんがジェラートを作る際にこだわっている、「美味しいジェラートは誰にでも作れるけど、一つひとつ意味のあるジェラートを作る」と、おっしゃっていて僕も意味のあるジェラート作りを心掛けています。世界大会で入賞した時のジェラートは、松の実・マスカルポーネ・シナモンを使っているんですけど、松の実は栄養素が高くてダイエット効果があったりとか、一つひとつに意味を持たせて作っています。

――ジェラート世界大会に出場してみたいかでしたか。

石:40万人規模の大会で人の数も多いですし、ジェラートの本場イタリアということもあって本当に規模も美味しさも何もかもが違い、それを感じることでよってたくさんの刺激になりました。まだ右も左もわからない状況でイタリアに行つての大会は不安もありましたけど、出場した大会で少しでも世界に認められたと実感できた体験でした。

――今後の夢や目標を教えてください。

石:日本では、まだまだジェラートが浸透していないので、まずは岡山の人にお店を知ってもらって広めていきたい。アイスクリームとの大きな違いとして、ジェラートは含まれる空気の量が少なく濃厚だが、後味がさっぱりしていて口の中に一瞬で広がり、消えるのが良いというようなジェラートの知識と共に岡山の方に浸透していけるようなお店にすることが目標です。



Gelateria La Nave 店長

石橋 玲音

Ishibashi reon

Profile

石橋玲音

Gelateria La Nave 店長

1998年5月13日生

ジェラート世界大会7位入賞

柴野大造さん監修のジェラート店「La Nave (ラ・ナーヴェ)」

世界大会入賞作品「マスカルビーノ」は店頭にて販売中

JAPAN MOVE UP WESTの更なる活動の浸透と広がりを実現するために、
より具体的かつ大胆に様々なジャンルの“Rise!～上昇～”をバックアップ。自身の心にある熱い想い、夢などを聞く。
Rise!の先には必ず人間の生きる意味、生まれてきた意味が見えてくると確信する。

JAPAN MOVE UP WEST



01 interview

Rise!
JAPAN MOVE UP WEST ARTIST

石橋 玲音

02 interview

Rise!
JAPAN MOVE UP WEST STREET

金島 総一郎

03 interview

Rise!
JAPAN MOVE UP WEST ARTIST

室井 美咲

Rise! FRONT INTERVIEW

ARTIST 石橋 玲音

Rise! INTERVIEW

STREET 金島 総一郎

Rise! INTERVIEW

ARTIST 室井 美咲



FAGIANO OKAYAMA

喜山 康平

54

JAPAN MOVE UP WEST

